

十勝特産種苗センターの概要

(1) 設立

日本特産農作物種苗協会は、昭和51年度に農林省から畑作種苗生産体制整備事業として十勝特産種苗センター建設のための補助金の交付を受け、北海道中川郡幕別町に3ヶ年計画で施設等の建設及びほ場の基盤整備が実施され、昭和54年7月に竣工しました。

当センターの事業については、特産農作物の優良原種、原種苗の生産・配布及び保管、ウィルスフリーの種苗の作出及び増殖、新作物・新品種の導入及び保管等を実施するとされ、昭和54年に種苗の生産・配布等の事業を開始して30年の節目となります。



写真1 事務所・施設等概観

(2) 位置

当センターは、帯広市から東へ約16km、幕別町市街から6 kmほどの豊岡地区に位置し、とち帯広空港からは約25kmの距離にあります。

(3) 土壌・気象

土地は、標高約170mの台地上にあり、緩やかに起伏する波状地であります。ほ場の平坦なところは乾性褐色火山性土ですが、傾斜下部では排水が悪く、湿性火山灰土が分布しています。

農耕期間の気象条件（5～9月の積算値）は、平均気温15.9℃で積算温度が2,392℃でやや冷涼であるものの寒暖の差が大きい。降水量は539mm、日照時間は742hrと多いのが特徴で、無霜期間は154日です。

(4) センターの規模

職員数は4名。耕地面積は38.9haで、建物敷地等を含め総面積は43.7haです。

(5) 事業概要

1) 原種苗の生産・配布事業

当センターでは、北海道等の関係道県及び関係団体と協議して樹立した生産計画に基づき、豆類、馬鈴しょ、麦類等の種苗について、表1に示した作物で16品種の原原種・原種等を生産し、農業団体等を通じて主に道内に配布されています。

表1 当センターの種苗生産概況（平成20年度）

作物名	区分	品種数	面積(a)
大豆	原種	1	50
	採種	1	150
小豆	原種	1	70
	採種	1	210
菜豆	原原種	2	300
	原種	2	150
小麦	原種	1	620
	採種	1	280
馬鈴しょ	原種	5	910
そば	原原種	1	100
計		16	2,840

2) 調査・試験研究等の実施

馬鈴しょの栽培試験及び試験用種いもの生産や地域特産作物の地域適応性、採種技術等に関する

調査を民間等関係機関より受託して実施しています。

① 馬鈴しょ海外導入品種の栽培試験

海外導入の馬鈴しょ品種（12品種）について、マイクロチューバー（MT）及びMT由来塊茎による栽培試験を行い、品種特性の知見を得るとともに試験塊茎の生産・配布。

② 馬鈴しょ育成系統の現地試験供試用塊茎の生産

民間等で育成した系統について、現地試験に供試する種いもの生産。

③ 地域特産作物の地域定着化に向けた共同調査

地域特産長いもについて、品種選定、栽培技術等の調査及び採種体系の構築に向けた種子生産技術の確立に関してJA 幕別町との共同調査。

④ 馬鈴しょ原種等のウイルス病後代検定

十勝地域で生産された原種ほ及び採種ほ産種馬鈴しょについて、ウイルス病の罹病状況を十勝農協連連合会と共同調査し、種馬鈴しょの栽培情報として提供。

⑤ 種馬鈴しょの小粒化種子生産技術確立試験

近年、畑作経営の大規模化と省力化の進展に伴い、小粒化した種馬鈴しょが求められている。種いも生産における小粒規格歩留まりの高い効率的な生産技術体系の確立に向けて十勝農業協同組合連合会との共同調査。

⑥ ばれいしょ加工適性研究会におけるライン試験用原料の生産

国産ばれいしょ生産と加工産業の振興を目的に、加工適性を備えた品種育成を加速するため、当協会が本研究会を主催していることからライン試験用原料の生産を行い、加工試験に供試して品種選抜の検討を行う。

（6）生産体制の整備等

1）当センター業務の効率化、生産性の向上等の技術改善への取り組み

当センターにおける原原種・原種苗生産の安定、品質向上を図るため、新たな栽培法や管理機械等の導入による生産技術の改善を行うとともに業務

の効率化に取り組んでいます。

最近、取り組んでいる課題は以下のとおりです。

- ・馬鈴しょ早期培土の導入による生産性の検証
- ・馬鈴しょ塊茎単位栽植法及び栽植密度の改善による規格内歩留まりの向上
- ・馬鈴しょの打撲等品質確保に向けた選別機械システムの改善
- ・豆類の要素欠乏対策
- ・豆類における機械収穫の適期作業体系への対応
- ・野良いも対策 等

2）高品質な種苗の生産を目指して

・ほ場の地力保全

4年輪作（豆類、馬鈴しょ、麦類、休閒緑肥）を堅持して、堆肥の補給、土壌診断に基づく合理的な施肥等を行うとともに、プラソイラー等による土壌排水対策により土壌保全に努めています。

・難防除病害虫に対する侵入防止・予防

ジャガイモシストセンチュウ等の重要病害虫に対して、囲障の設置、ほ場への立入り規制、外部車両及び容器等の洗浄の励行等の対策を実施するとともに、より実情に対応した対策強化を図っているところです。また、ジャガイモそうか病、小豆落葉病等の土壌病害についても発生抑止対策を講じつつ、特に、種子伝染性病害には発生の確認に注意して、抜取・防除等の徹底を図り健全な種苗生産に努めています。



写真2 種苗生産ほ場概観（キタワセソバ原原種ほ場）